

# *FK310 Series Moped Bike User's Manual*

～ FK310 シリーズモペットバイク総合説明書 ～  
乗る前に必ずお読み下さい



**FUJI**  
**planning**

〒246-0002 神奈川県横浜市瀬谷区北町 43-18  
TEL: 045-922-6011 FAX: 045-922-6091  
e-mail: info@fuki.co.jp URL: <http://www.fuki.co.jp>





はじめに…

この度は、フキ・プランニングのFK310シリーズ・モペットバイクをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

このマニュアルには、FK310シリーズ・モペットバイクをよりご理解頂けるよう、正しいお取り扱い方法、安全な運転の仕方、混合2サイクルエンジンオイルの作り方など、詳しく説明してあります。  
必ず、ご使用前にこのマニュアルをよくお読み頂き、内容を正しくご理解の上、安全運転をして頂きます様お願い申し上げます。

この説明書は「取扱説明書」「組立説明書」「保証書」と共に大切に保管して下さい。




万一、運転中に異常音又は通常と違う動作等不審な点が発生した場合は、直ちにご使用を中止しされ、お買い上げ販売店又は当社までご連絡頂くと共に、点検修理を行って下さい。

またご質問、ご不明な点が有りましたら、当社までお問い合わせ下さい。

(有)フキ・プランニング

## マメ知識 - 手信号指示方法とタイミング

車の運転手は右左折、進路変更などしようとする際には、あらかじめ安全を確かめてから合図をし、これらの行為が終わるまで合図を継続してください。

合図を行う場合	合図を行う時期（場所）	合図の方法
左折するとき	左折しようとする地点から30m手前の地点に達したとき。	左腕を車の左側の外に出して、水平にのばします。 
同一方向に進行しながら進路を左方に変えるとき（進路変更）	進路を変えようとするときの約3秒前。	
右折か転回をするとき	右折か転回をしようとする地点から30m手前の地点に達したとき。	左腕を車の左側の外に出して、ひじを垂直に上にまげます。 
同一方向に進行しながら進路を右方に変えるとき（進路変更）	進路を変えようとするときの約3秒前。	
徐行か停止をするとき	徐行か停止をしようとするとき。	腕を車の外に出して、斜め下にのばします。 

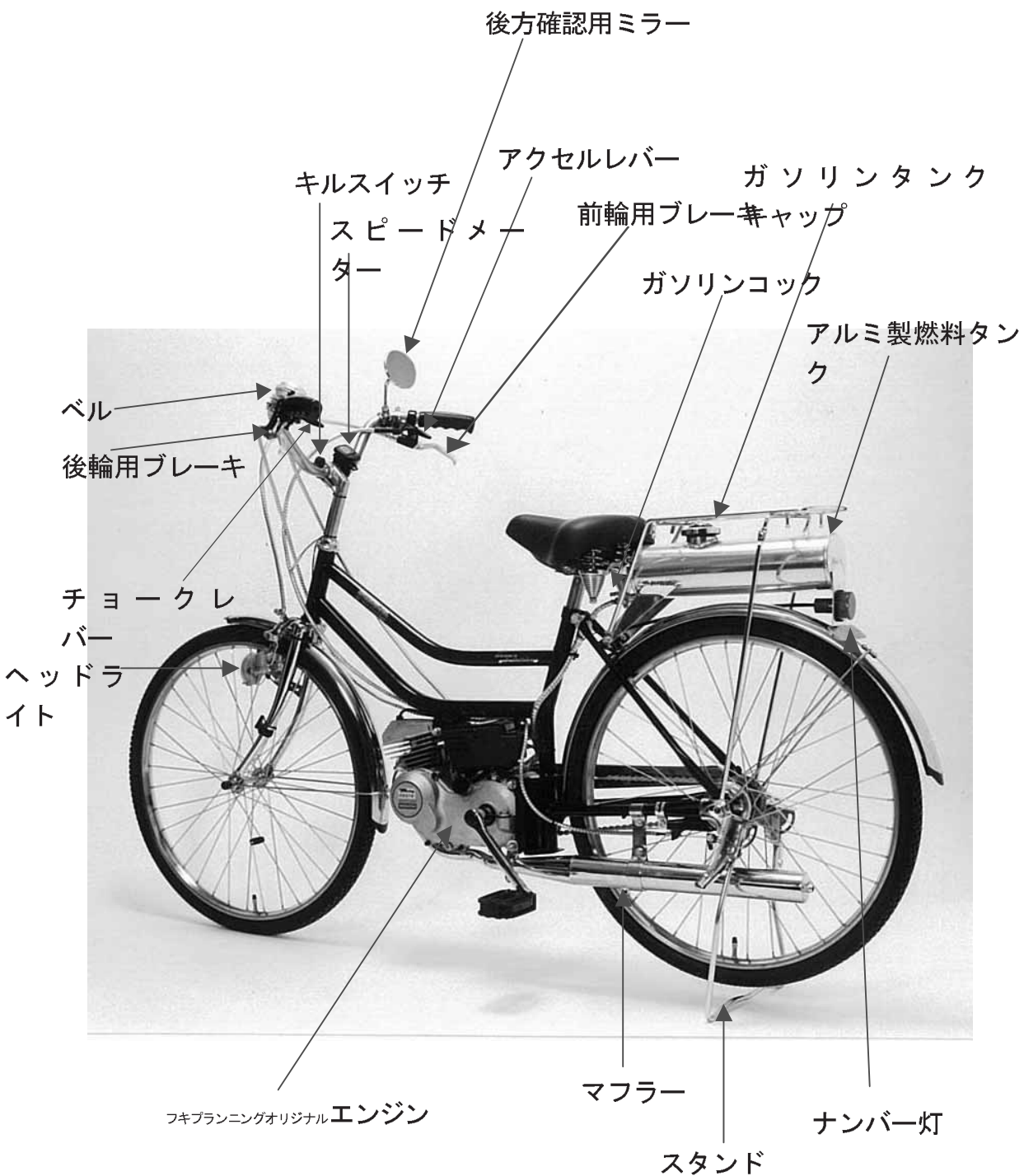
きちんと交通ルールを守り楽しくドライブしましょう！

## ～目次～

---

I	FK310 モペットバイク解説図及び解説	1
1-3.	モペットバイク構造概要	
II	お乗りになる前に	3
2-2.	エンジンオイル&ガソリンについて	3
2-3.	混合ガソリン取り扱い注意事項	3
2-4.	混合ガソリンの作り方及び取扱方法	4
2-5.	日常点検	4
	ヘッドライト自力発電設定	4
2-6.	運転免許について	4
	ナンバー登録について	5
2-7.	自賠責保険について	
	FK310 本体保障について	
III	正しい運転操作手順について	5
3-1.	エンジン開始方法	6
3-2.	運転パターン	6
3-3.	エンジン停止方法	
IV	エンジン停止したら気をつける事	6
4-1.	駐車の際気をつける事	6
4-2.	スピードメータ取り外し方法	
5-1.	定期点検項目表	7
V	整備記録のゆるみ	7
5-3.	エアクリーナエレメントメンテ	7
5-4.	ナンス	7
5-5.	点火プラグメンテナンス	8
5-6.	ギアメンテナンス	8
5-7.	マフラー・排気ポートメンテナ	8
5-8.	ンス	8
5-9.	燃料フィルターメンテナンス	8
5-10.	タイヤメンテナンス	9
5-11.	ブレーキメンテナンス	9
	ライトメンテナンス	
	長期保存	
VI	故障かな?と思った時	
VII	FK310 仕様及び BE30 エンジン分解図	
7-1.	規定	
7-2.	BE30 エンジン分解図	

# FK310モペットバイク解説図と解説



BE30

## アクセル・前輪用ブレーキバー



右ハンドルには2つのレバーが設置されています。メインの大きいレバーは自転車同様、前輪用ブレーキレバーです。その近くに設置されている小さな黒レバーがアクセルレバーです。握るとエンジン回転数が上がり加速します。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## 後方確認用ミラー



バイク同様後方確認用ミラー。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## キルスイッチ・スピードメーター



ハンドルバー中央部に設置されたキルスイッチは、エンジンが停止するまでボタンを押し続ける事によって、簡単にエンジン停止が出来ます。

キルスイッチの左横にはデジタルスピードメータ(設定済み)です。(FK 310シリーズ全共通機能)

## ベル



自転車同様ベル (FK 310 シリーズ全共通機能)

## チョーク・後輪用ブレーキバー



左ハンドルには2つのレバーが設置されています。メインの大きいレバーは自転車同様後輪用ブレーキレバー、その近くに設置されている小さな黒レバーがチョークレバーです。チョークレバーを握る事によってガソリンの混合比を高めエンジンを掛かり易くします。冬期等でエンジンが掛かりにくい時に使用します。(FK 310シリーズ全共通機能)

## フキブランニング機/排気エンジン (BE30)



空冷2ストローク単気筒、排気量31.7CC。(詳細は主要諸元を参照) 走行モードは「フリー(自転車)」「バイク」の2種類切り替えスイッチ付き。(FK 310シリーズ全共通機能)

## ガソリンコック



ガソリンコックレバーをオン(縦方向に回す)にする事によってガソリンをエンジンに供給する事が出来ます。ガソリン漏れを防ぐ為にエンジン停止時には必ずコックを閉めて(レバーを横方向に回す)下さい。

ガソリンコックの設置位置はDX/STD II /DIGI はガソリタンク真下に、LA II はフレーム中央部にあるガソリタンク真下に設置して有ります。(FK 310 シリーズ全共通機能)

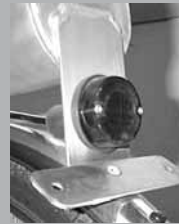


## 燃料タンク・タンクキャップ



アルミ製燃料タンクは機種によって容量が若干違いますので詳細は主要諸元を参照して下さい。キャップは盗難防止用鍵付きです。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## ナンバー灯



LA II はリアフェンダーに直接設置してあります。エンジンをかけると電気が発生しナンバープレートを照らします。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## スタンド

DX/STD II /DIGI には両立スタンド、LA II には片足スタンドが標準で装着されています。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## ヘッドライト



STD II /DX は前輪スポーク横にLA II /DIGI にはハンドルステム中央に標準で装着されています。電源はバイク走行時はエンジンから、自転車走行時は自力発電されます。(FK 310 シリーズ全共通機能)

## マフラー

STD II /DIGI は耐熱塗装の黒、DX/LA II はクロームメッキ仕上げです。(FK 310シリーズ全共通機能)

# お乗りになる前に

## 2-1. エンジンオイル&ガソリンについて

FK 310シリーズ・モペットバイクは空冷2サイクル単気筒エンジンを採用しています。給油には市販の2サイクルエンジンオイル又はゼノア純正2サイクルエンジンオイルをガソリンと混合してから給油して下さい。エンジンオイル混合ガソリン混合比に関しましては40:1(ガソリン:ゼノア純正2サイクルエンジンオイル)です。混合する際は直接ガソリントタンク内で混合せず、市販されているガソリン保管用タンクなどの容器を使用して行って下さい。直接ガソリントタンク内で混合しますとガソリンとエンジンオイルが適度に混合されずエンジンが、かかなくなったり、エンジン故障の一原因になりますので避けて下さい。不適切な方法で対処しエンジンや他のパーツの故障を引き起こした場合、当社では責任を負いかねますのでご了承くださいと共に、本章を良くお読みになってご理解されてからお取扱い下さい。

また初心者、不慣れな方には既に混合済みのゼノアビックバンガソリンをお勧めします。この純正混合ガソリンはエンジン内部をクリーンに保つ清浄剤入りですのでエンジンのコンディションを最適に保ってくれます。

## 2-2. 取扱い注意事項

ガソリンは発火性が高く、爆発または火災につながる可能性がありますので、お取り扱いに充分にお気をつけ下さい。小さなお子様の手の届く場所での作業や保管は危険ですから絶対に避けて下さい。

警告1 

混合・給油時は必ずエンジンを停止させ温度を下げた後から行って下さい。

警告2 


混合・給油時は裸火・花火等の熱源・火元から遠ざけて下さい。

警告3 

混合・給油時は野外または換気の効いた場所で行って下さい

警告4 

混合・給油中にこぼれたガソリンやオイルは直ぐに拭き取って下さい。

警告5 

エンジンオイル混合ガソリンを保管する場合、低温、直射日光を避けて保管して下さい。

い。

## 2-3. エンジンオイル混合ガソリンの作り方

市販の2サイクルエンジンオイル又はゼノア純正2サイクルエンジンオイルを携行缶(鉄・アルミ容器)ガソリンと混合してから給油して下さい。エンジンオイル混合ガソリン混合比に関しましては40:1(ガソリン:ゼノア純正2サイクルエンジンオイル)です。混合用の容器は中にゴミやホコリが含まれていないか、よくご確認のうえご使用下さい。手順は次の通りです。(1リットル容器を使用した場合)

1. 容器内が清潔な1リットル鉄・アルミ容器(1000cc)にガソリンを少量入れます。
2. 25ccの2サイクルエンジンオイルを入れます。
3. 残りのガソリンを追加します。
4. 容器の蓋をしっかりと閉めてからオイルとガソリンが混ざるようよく振ります。
5. FK310ガソリントタンクに給油します。
6. 残った混合ガソリンは低温、直射日光の当たらぬ場所に保管して下さい。

警告6 

混合する際、ポリ容器は絶対に使用しないで下さい。  
ポリ容器はガソリン成分を外部に通し易く、蓋を閉めた状態でも揮発する恐れがあります。アウトドア・日用品店等で市販されている鉄またはアルミ製容器を使用して下さい。

給油終了後、ガソリントタンク側の溝にガソリンキャップの出っ張りを合わせて押しながら「カチン」という音と共に確実にロックするまでキャップを閉めて下さい。その際ガソリンキャップの鍵がなくてもロック出来ます。

ガソリントタンクキャップの鍵は同型2つ付きで前輪に取り付けられた自転車盗難防止用の鍵ホルダーと一緒に設置されています。一つは予備用として他の場所に保管する事をお勧めします。万が一両方とも紛失しても当社では鍵の再発行は出来ませんのでご了承下さい。

## 2-4. 日常点検

日々の点検は、一日一回エンジン始動前に決められた部位の点検を行う事により具合の悪い箇所を発見し、故障や事故を未然に防ぐ事が出来ます。運転する前に必ずチェックするよう習慣付けられることを、お勧めいたします。

燃料の点検、ガソリン漏れ、部品の磨耗、また各部ネジのゆるみ等を確認します。



破損や異常がないか車体各部を点検し、もし異常を発見した場合は無理して運転走行せず、お買い上げ頂いた販売店又は当社で点検・修理を依頼して下さい。

【燃料の点検】 燃料が十分入っているか。(もしエンジン走行中ガソリンがなくなってもペダルをこいで

自転車走行が可能です。)

【ガソリン洩れ】 ガソリンが洩れていないこと。

【各部ネジのゆるみ】 各部分のネジのゆるみがないこと。

【タイヤ】 適切な空気圧があること。タイヤの空気圧値は前輪が2.5kgf/cm 後輪3.0kgf/cmにする。  
(主要諸元を参照) タイヤに亀裂・損傷・異常な磨耗がないか溝の深さのチェック

【ブレーキ】 レバーの遊びが適度なこと。(主要諸元を参照)

またブレーキをかけた時、異常音やブレーキが滑るような感覚がないこと。

【灯火装置】 ヘッドライト・ナンバー灯が的確に作動すること。

【前日の運行において異常が認められた箇所】 前回運転時に異常を発見した箇所をチェック。

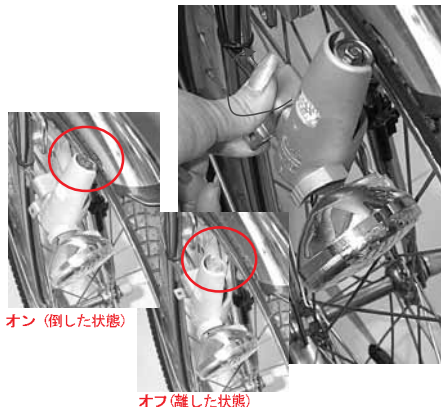
## 2-5. ヘッドライトの自力発電設定

FK310シリーズにはヘッドライトが設定されています。STD II / DXはスポーク横に、DIGI / LA IIはハンドルステム中央に固定されています。電源はバイク走行時はエンジンから自動発電しますが、自転車走行時は自力発電をしなければなりません。このため自転車走行をする際にあらかじめライト本体にある発電用ダイナモをタイヤ側に倒して下さい。

注意



エンジン走行中はダイナモをオフにして下さい。オンのままでエンジン走行し続けると、過剰電力が発生し電球の球切れを頻繁に起こす原因となります。



オン (倒した状態)

オフ (離した状態)

## 2-6. 運転免許について

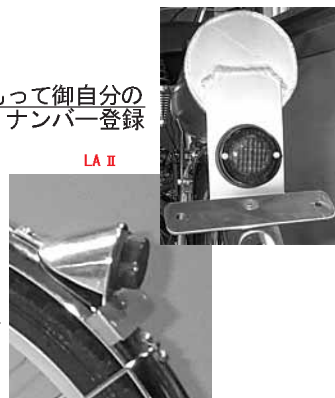
FK310シリーズ・モペットバイクを一般公道で運転するには、原動機付自転車(第1種)の免許が必要となります。ご自身の免許で運転可能か確認して下さい。また運転中は免許証の所持が義務づけられています。当社モペットバイクはバイクモードをフリー(自転車走行)にしても法律上、歩道走行は出来ません。

## 2-7. ナンバー登録について

このマニュアルと一緒に添付された販売証明書及び仕様保証書と認め印をもって御自分の住民登録のある市町村役場へ行きナンバー登録の手続きを行って下さい。ナンバー登録料は無料です。役所によって多少異なりますが、車台番号の石擦りコピーを要求される場合があります。当社の車体番号は改ざん防止シールの為コピーが取れませんので、封筒に貼ってあるものと同じシールをご提出下さい。なお税金は一年間で約¥1,000前後です。

役所によって多少手続きが異なる場合がありますので、事前に役所に詳細を問い合わせる事をお勧めします。また登録手続き上、問題・質問等が発生した場合はすみやかに当社へご連絡下さい。当社から直接役所の係員に事情説明致します。

ナンバープレート設置位置はSTD II / DX/DIGIは後方ガソリンタンク下、LA IIはリアフェンダーナンバー灯真下です。



LA II

STD II / DX/DIGI

## 2-8. 自動車損害賠償責任保険について


法律により自賠責保険に加入する事が義務付けられています。取得したナンバーおよび登録証を損害保険会社の代理店もしくは、自動車の販売店、オートバイ販売店、コンビニエンスストア(セブンイレブン等)に提示して自動車損害賠償責任保険(自賠責保険)に加入して下さい。

## 2-9. FK310モペットバイク本体保障について。

保証期間はお買い上げ日から6ヶ月間です。保証対象の詳細については「保証書」をよくお読み下さい。

## 2-10. ヘルメット着用について

FK310シリーズは自転車走行が出来る原動付き自転車(原付オートバイ)です。乗車する場合は必ずヘルメットを着用する事が義務付けられています。なお、乗車定員は運転者のみの一人です。乳児・幼児・を含む二人乗りは事故を起こす原因になり危険ですので絶対にしないで下さい。又16歳未満の未成年者も運転不可能です。

 **警告**

ヘルメットを正しく装着していないと万一の事故の際、死亡又は重大な障害に至る可能性が高くなります。運転者は必ずヘルメット、保護具及び保護製の高い服を着用して下さい。

服装についてもFK310シリーズ・モペットバイクはあくまでも原付バイクですので軽装は避けて下さい。不適切な服装で運転し、万が一転倒・接触事故等が発生した場合大きな障害に発展する原因になりかねますので充分気をつけて下さい。

## 正しい運転操作方法

### 3-1. エンジン始動方法

1. ガソリンタンクの下にあるガソリンコックレバーを開けます。(図1参照)レバーが縦方向でオープンです。(エンジンを止めた時は必ずコックをオフ、レバーを横にして下さい)
2. エンジン左横にある黒いツマミを縦方向に押しながら回し「ドライブモード」にします。(図2参照)ペダルを踏んで「カチン」と音がするまで回転させてその位置でペダルが固定されたのを確認して下さい。なお、ペダルが重くならない場合はツマミを180度回転してみてください。自転車走行のみにするときにはツマミをフリー(右回転方向に押しながら90度回す)にします。

図1

オン(開)

オフ(閉)

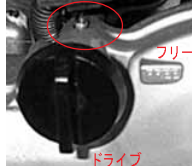


フリーモード  
(自転車走行)状態。

つまみを押しして90度回します。

ドライブモード(バイク走行)状態  
凸を溝に完全に入れます。

図2



### 【暫く運転しない際の注意】

2~3週間運転しない場合は最後にお乗りになる際、キャブレター内に残った混合ガソリンオイルを抜き取って下さい。抜き取り方はガソリンコックを閉めエンジンが自然に止まるまでエンジンを回し続けます。もしキャブレター内に混合ガソリンが残ったままで保管すると揮発性の高いガソリンだけが揮発し、キャブレター内に残った2サイクルエンジンオイルの濃度が高くなり固まる可能性があります。それが原因でキャブレターからガソリンが漏れるオーバーフロー状態を引き起こしたり、エンジンを掛けてもアイドリングが安定しなくなる場合があります。

3. 両手でハンドルを握ります。ペダルを一気に踏み込みエンジンを始動させます。エンジンが始動しない場合はアクセルレバーとチョークレバーを半分くらいにしてペダルを踏み込んで下さい。また、ペダルが踏みづらい時は、片足で地面を蹴り、車を動かしながら踏み込んで下さい。エンジンが始動したらアクセルレバーで速度の調整をします。エンジンが冷えている間はエンジンが止まりやすいのでチョークレバーを少し握り、エンジンが止まらないように調整します。

#### ブレーキ・アクセル・チョークレバー使用方法

ハンドルには4つのレバーが装備されています。左右にあるメインの大きなレバーは自転車同様ブレーキレバーです。右レバーは前輪用ブレーキ、左レバーは後輪用ブレーキです。

アクセルは右ハンドルのグリップ部にある小さな黒いレバーで、握るとエンジン回転数が上がります。左グリップに備え付けられた小さな黒いレバーがチョークレバーです。チョークレバーはエンジンが冷えている時の始動時に使用します。チョークレバーを握りながらペダルを踏み込みエンジンを始動させます。



踏み込んで  
エンジンを始動させる。

### 速度調整-アクセル

速度の調節は右ハンドルのアクセルレバーで少しずつアクセルを開けスピードを調節します。エンジンだけの法定最高速度は20km/h未満です。アクセルレバーを離すと自然に減速します。

### 速度調整-ブレーキ

左右にあるブレーキレバーを使用します。最高速度走行時に急ブレーキをかけた場合、直ぐにはブレーキが完全に掛かりません。ブレーキをかける際はアクセルを離し徐々にブレーキをかけ停止するよう心掛けて下さい。

またブレーキレバーの遊び幅は10～20cmです。(主要緒元参照) 万が一、遊びがそれ以下又は以上になった場合は使用を中止しお買い上げ頂いた販売店又は当社で点検・修理を依頼して下さい。

## 3-2. 運転パターン

「ペダルのみでの走行」  
「エンジンのみでの走行」  
「エンジンとペダルアシストでの走行」の3種類走行が可能です。

注意



タイヤが滑りやすい路面(オイル・水溜り・凍結)や砂利、砂地、舗装がされていない高低の差が激しいでこぼこ道、複数の穴の開いたような場所は横転事故、又は車体・エンジンの故障を引き起こす原因となりますので運転走行をなるべく避けて下さい。

## 3-3. エンジン停止方法

ハンドルバー中心にある黒いキルボタンを、エンジンが停止するまで押して下さい。バイクモードから自転車モードに切り替えるにはエンジンを停止しバイクから降りてからでないと切り換えが出来ません。

# エンジン停止したら気をつける事

## 4-1. エンジン停止したら

FK310・モペットバイクを駐車する際の注意事項です。当社のモペットバイクは一目を引き、盗難されるケースも発生しております。駐車する際、前輪に取り付けてある鍵又は市販されている自転車盗難防止用ワイヤー錠等を使用する事をお勧めします。またスピードメーター本体は簡単に取り外しが可能ですので、取り外しお持ちくださる事をお勧めします。(スピードメーター取り外し方法参照)

警告 1



ガソリンコックを必ず閉めてください。ガソリンコックを開けたまま駐車して万が一車が転倒した場合ガソリンが洩れ出す恐れがあります。

警告 2



エンジン停止後暫くははエンジン周辺・マフラー等がかなり熱くなっています。ドライバー自身または他の方が触れ火傷の原因になることのない様、安全な場所に駐車して下さい。

警告 3



車体を横倒した状態で駐車するとミッションオイルが漏れ出します。倒した状態で駐車しないで下さい。また駐車場所もなるべく転倒の恐れのない平坦な場所に駐車して下さい。

## 4-2. スピードメーター取り外し方法

スピードメーター本体下にあるロックレバーを下方向に押して、ロックを外し本体をスライドアウトして下さい。また取り付ける際は本体をブラケットの中にカチッと音がして止まるまで滑り込ませます。



# 整備要領

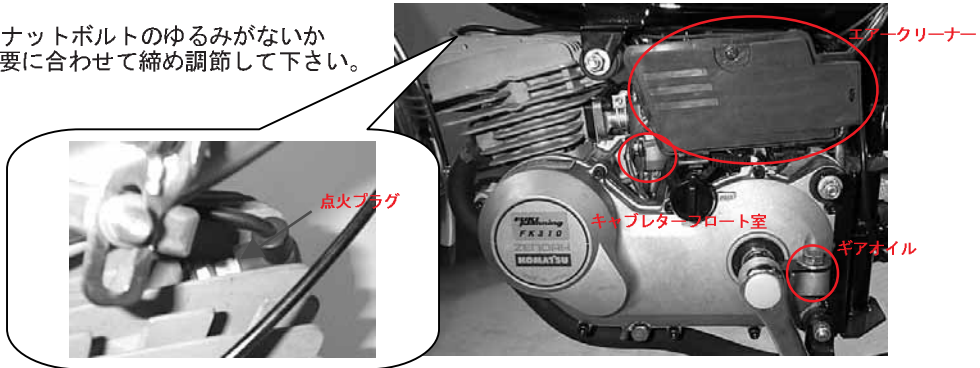
## 5-1. 定期点検項目

モペットバイクのパーツ及びその他サービスはお買い上げ頂いた販売店又は当社でサポートしております。モペットバイクの性能を有効に活用し、耐久性を向上させ安全に経済的に使用するには定期点検を行い、具合の悪い箇所や近い将来具合が悪くなるような箇所を探し出し適切な処置を取るようにならなければなりません。ユーザーご自身あるいは販売店、整備工場にて定期検診を行って下さい。

	毎日	30時間毎	50時間毎	100時間毎	備考
燃料の点検	○				2サイクルオイル混合ガソリンであること
ガソリン漏れ	○				漏れないこと
各部ネジのゆるみ					ゆるみのないこと
エアークリーナエレメントの清掃			○		汚れのひどいときは交換
点火プラグの清掃、調整	○	○			すきま0.6～0.7mm
燃料タンクの清掃			○		砂・ほこり・水等ないこと
シリンダーの増締め				○	
エンジン各部の増締め				○	
マフラー、排気ポートの詰まり				○	
燃料フィルターの清掃				○	
ギアオイルの点検、補充				○	SAE #90、200～250cc

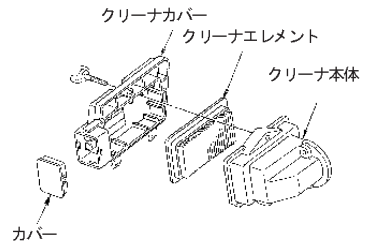
## 5-2. 各部ネジのゆるみ

各パーツのナットボルトのゆるみがないか確認し、必要に合わせて締め調節して下さい。



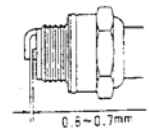
## 5-3. エアークリーナエレメントのメンテナンス

エアークリーナカバーを外しエレメントを取り外します。ホコリ等が溜まっている場合はエアースプレーやハケ等で清掃して下さい。エアースプレーで清掃する場合はキャブレター側から（濾過された空気が出る側）吹き付けて下さい。そうしないと逆に埃がエレメントの隙間に入り込んでしまいます。汚れの酷い場合はクリーナエレメント自体の交換をして下さい。（主要緒言参照）



## 5-4. 点火プラグのメンテナンス

点火プラグの電極間の隙間は0.6～0.7mmとなるよう調節して下さい。点火プラグにカーボンが付着した場合はワイヤーブラシや針金できれいに落として下さい。スパークプラグの交換は指定プラグ CHAMPION RCJ-8Y又はNGK BPMRGA（主要緒言参照）を使用して下さい。

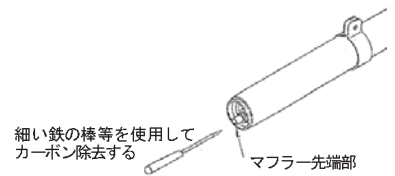


## 5-5. ギアメンテナンス

オイルはエンジンを水平にし給油口からオイルの湯面が見える程度（200～250cc）です。ギアオイル残量をチェックし足りなければ給油して下さい。オイルは通常#90です。特別寒冷地では寒冷地に適合したオイルを使用して下さい。

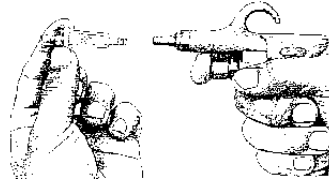
## 5-6. マフラー・排気ポートメンテナンス

マフラー先の排気ポートにカーボンが付着していないか、チェックして下さい。カーボンが付着している場合は細い鉄の棒やワイヤーブラシ等により除去して下さい。



## 5-7. 燃料フィルターメンテナンス

燃料フィルターが汚れていたらエアスプレー・ハケ等で清掃して下さい。フィルターを外す前に必ずガソリンコックを閉めて、フィルター左右に付いているタイラップベルトを切断して下さい。清掃後再設置する時再びタイラップベルトで左右のチューブを固定して下さい。



## 5-8. タイヤメンテナンス

タイヤの溝が擦り切れる標準的な磨耗やひび割れ、裂け目等が出ればタイヤの交換時期です。本書主要緒元に明記してある適切サイズのタイヤに交換して下さい。また空気圧も必ず日常点検し調整して下さい。メンテナンスを怠るとエンジンや車体に悪影響を及ぼす可能性がありますので充分気をつけて下さい。

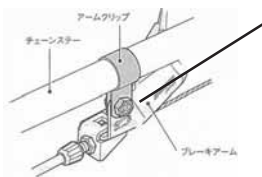
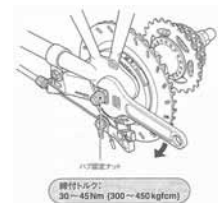
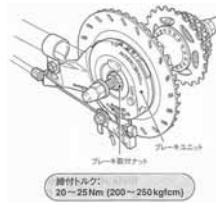
**警告**

規定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与える事があります。その事が原因で転倒事故などを起こし、死亡又は重大な障害に陥る可能性があります。取扱説明書（主要緒元）に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えて磨り減ったタイヤは交換して下さい。

## 5-9. ブレーキメンテナンス

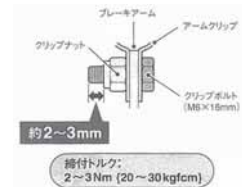
ブレーキの効き、またはブレーキレバーの遊び点検は必ず定期的に行って下さい。後輪ブレーキ点検は両立スタンドを使いタイヤを浮かせ空回りさせブレーキの効きを点検する事が出来ます。ブレーキをかけた時異常音やブレーキが滑るような感覚がする場合は必ずメンテナンスを行ってから運転して下さい。ブレーキが効きにくい場合は、前輪ブレーキパッド（ゴム）の磨耗か、ブレーキワイヤーの伸びが考えられます。前輪ブレーキパッドは、磨耗して溝が1mm以下になったら交換して下さい。

1. ブレーキユニットが、ハブ本体にブレーキ取付ナットで確実に固定されていることを確認して下さい。
2. 車輪がフレームに、ハブ固定ナットで確実に固定されていることを確認して下さい。
3. ブレーキアームが、アームクリップでチェーンステーにしっかりと固定されていることを確認して下さい。取付け不良は、ブレーキ性能が悪くなります。



ブレーキアームに無理な力を加えると、車輪の回転が重くなります。取付けのときは、充分注意して下さい。

クリップボルトを締付けるときは、クリップナットを10mmスパナで固定し、クリップボルトを確実に締付け、クリップボルトがクリップナットの端面から約2~3mm出ていることを確認して下さい。



4. 使用中、次のことが発生した場合には、即刻使用を中止し、販売店で点検・修理をしてください。
  - 1) ブレーキをかけたとき、音鳴りがした場合
  - 2) ブレーキの効きが異常に強すぎる場合
  - 3) ブレーキの効きが異常に弱すぎる場合
 1) と 2) の場合は、ブレーキグリスの不足が考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給して下さい。



## 故障かな？と思った時

### <エンジンが始動しない>

- ✓チェック1：走行モードがドライブになっていますか？  
フリーモードからドライブモードに変更して下さい。(エンジン始動方法を参照 P5)
- ✓チェック2：燃料は充分補給されていますか？  
標準約1.5リットルから2リットル容量がありますので十分に給油して下さい。モペットバイクの形式によって若干容量が違いますのでFK310主要緒元を参照して下さい (P10)
- ✓チェック3：燃料タンク内に水等の不純物が混入されていませんか？  
タンク内に水・ゴミ等の不純物が詰まっていると正常にガソリンがエンジン内に供給されなくなる原因となります。タンク内を清掃して下さい。
- ✓チェック4：点火プラグが劣化していませんか？  
プラグの清掃、交換して下さい。(定期点検参照 P8)
- ✓チェック5：エンジンオイル混合ガソリンの比率は正しく混合されていますか？  
エンジンオイルとガソリンが正しい比率で混合されていないとエンジンが始動しない原因となります。(エンジンオイル混合ガソリンの作り方参照 P3)
- ✓チェック6：ペダルを踏み込む際チョークレバーを使用しましたか？  
エンジンが冷えていたり踏み込みが弱いとエンジンが掛からない原因になります。その際はチョークレバーを使用しエンジンを掛かり易くします。(エンジン始動方法を参照 P5)

上記チェック項目を全て確認してもまだ本題が発生する場合や、又ペダルを踏んでも圧縮が無い場合は運転を直ちに中止し、お買い上げ販売店・当社までお問い合わせ頂くと共に、専門家により点検修理を行って下さい。

### <ドライブ・フリーモードスイッチの切換えが出来ない>

- ✓チェック1：スイッチの切換えを長期間行わないでいると時々この症状が発生します。  
フリーモードからドライブモードに切り替えが出来なくなった場合はドライブ・フリーモードスイッチの裏から指等でスイッチバーを手元側に押し戻して下さい(下記参照)



### <運転中にエンジンが停止する>

- ✓チェック1：燃料は充分補給されていますか？十分に給油して下さい。  
標準約1.5リットルから2リットル容量がありますので十分に給油して下さい。モペットバイクの形式によって若干容量が違いますのでFK310主要緒元を参照して下さい (P10)
- ✓チェック2：点火プラグにカーボンが付着していませんか？  
プラグの清掃、交換して下さい。(定期点検参照 P8)

## FK310仕様及びエンジン解説図

### 7-1. FK310 主要緒元

機種形式	FK310-STDII	DX	DIGI	LAI
全長	1,680mm	1,680mm	1,600mm	1,800mm
全幅	590mm	560mm	580mm	670mm
全幅 (ペダル部分)	460mm	460mm	420mm	460mm
全高	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,050mm
車両重量	27kg	27.5kg	28kg	28kg
シート高	800~1050mm			
原動機種類/総排気量	フキブランニング オリジナル BE30型/31.7cc			
タイヤサイズ	前輪	24" 1-1/2 (40-540)	26" 2.125	
	後輪	24" 1-1/2 (40-540)	26" 2.125	
燃料消費量	43km/l (通常走行時)			
制動停止距離	3.5m (初速20km/h)			
気筒数-内径×行程	1-35×33			
最大出力	0.8/4500~5500PS/rpm			
最大トルク	0.15/3500~4500PS/rpm			
使用燃料	2サイクルオイル混合ガソリン			
混合比	40 (無鉛ガソリン) : 1 (2サイクルエンジン専用オイル)			
点火方式	電子制御フライホイールマグネット式			
点火プラグ	チャンピオンRCJ-8YまたはNGK BPMR6A			
アイドリング回転数	1800~2200rpm			
エアクリーナー形式	乾式ペーパーエレメント			
トランスミッション形式	常時噛み合いヘリカル歯車減速機 (自転車走行切替装置付)			
クラッチ	自動遠心湿式クラッチ			
ミッションオイル、油量	SAE #90ギアオイル 200~250cc			
ブレーキ	Shimano INTERM			
ブレーキレバーの遊び	10~20mm			
タイヤ空気圧	前輪	2.5kgf/cm		
	後輪	3.0kgf/cm		
点火プラグ点火すきま	0.6~0.7mm			
ヘッドライト電球	1.2Watt LED			
ナンバー灯	12V-23/6W			
カラー	ブラック/シルバー	パールホワイト	パールホワイト/ワインレッド	
タンク容量	1.9L	1.9L	1.5L	
スタンド	両立スタンド			片側スタンド
フレーム材質	ハイテンスティール			
スピードメーター	SANPED デジタルスピードメーター			



## 7-2. フキプランニング オリジナル BE30エンジン主な特徴点及び分解図

### 主な特徴点

BE30エンジンは31.7ccピストンバルブ式空冷2サイクルエンジンでモペットバイクFK310用として開発されました。本エンジンの特徴は低速・高出力タイプとして優れた登坂加速性を発揮、また構造についてはシンプルなお設計のため点検項目が少なく点検も容易なエンジンとなっています。

- 1) エンジン部と減速機部が一体で取付制限が少なくまた、着脱が容易。
- 2) 低速・高出力形で優れた登坂、加速性を発揮。従来のエンジン付き自転車にないフィーリングを楽しむ。
- 3) フキ・プランニング独自のペダル始動方式で始動操作が簡単、しかも一発始動を実現。
- 4) エンジンに点灯コイルを設定

